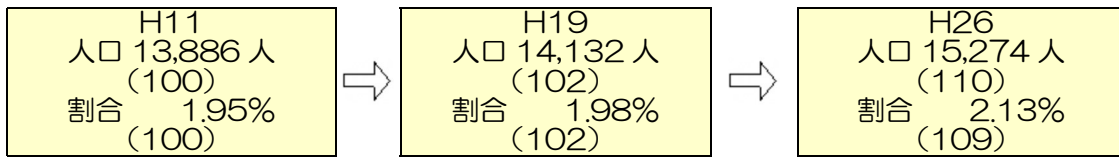


人口動態

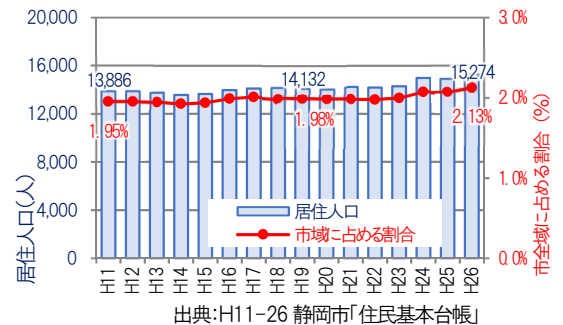
◎居住人口、市全域に占める人口割合は増加



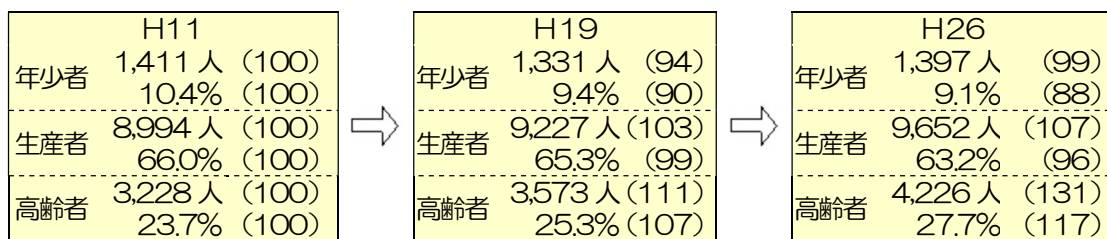
静岡地区の居住人口は、増加傾向にある。これは、再開発・優建事業をはじめとした住戸整備を基礎とし、前計画推進による生活利便性・魅力向上等による総合的な効果が発現したものと推察する。

また、市全域に占める静岡地区の居住割合（集積率）も増加傾向にあり、まちなか居住の推進が図られている。

【静岡地区居住人口、市全域に占める割合】

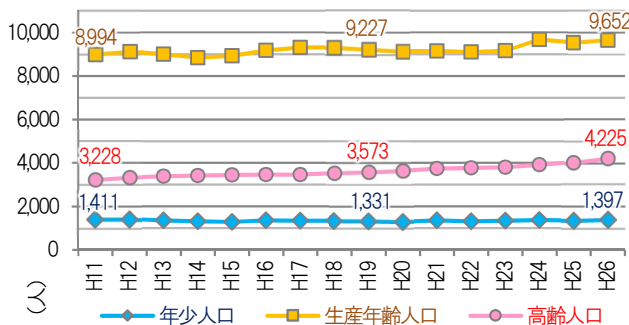


◎高齢化が進むも、生産年齢人口も増加傾向

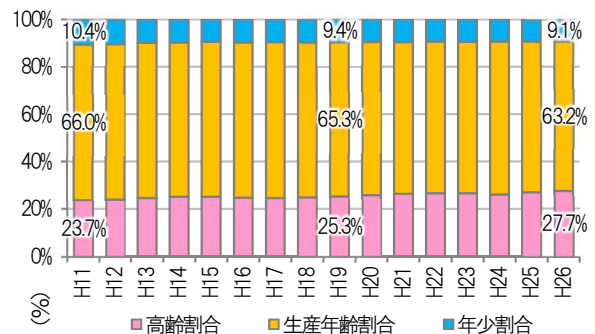


静岡地区の年齢構成別人口は、年少者（～14歳）はほぼ横ばいに推移し、生産年齢者（15歳～64歳）は増加・減少を繰り返しながらも概ね増加傾向にあり、高齢者（65歳～）は増加傾向にある。地区内の割合で見れば、年少者割合が10%を割り込み、さらに減少傾向が進展している一方、高齢者割合は増加傾向にあり、3割到達を目前としている。全国的な傾向と同様に、静岡地区においても高齢化は着実に進んでいる。

【静岡地区年齢構成別人口】



【静岡地区年齢構成別割合】



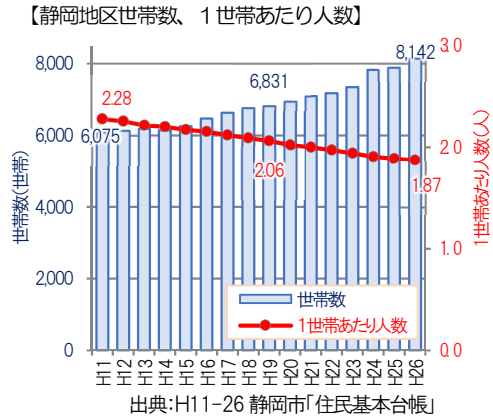
出典: H11-26 静岡市「住民基本台帳」

◎世帯数は増加傾向にあるものの、1世帯あたりの平均人数は減少

H11 世帯数 6,075 世帯 (100) 1世帯平均 2.28人 (100)	⇒	H19 世帯数 6,831 世帯 (112) 1世帯平均 2.06人 (90)	⇒	H26 世帯数 8,142 世帯 (134) 1世帯平均 1.87人 (82)
--	---	---	---	---

静岡地区の世帯数は、増加傾向にある。H11→H26で約2,000世帯増、対比134%となった。特に、H24以降の3年間で約900世帯が増加した。

一方、1世帯あたりの平均人数は減少傾向にある。H22に世帯平均人数が2人を下回り、さらに減少傾向が進んでいる。つまりは、静岡地区にはファミリー層など人数の多い世帯よりも、単身世帯や夫婦世帯が主に居住する傾向にあると言える。



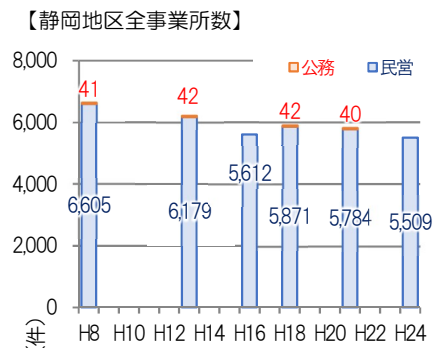
産業全般

◎全事業所数は、減少傾向

H8 全体 6,646 件 (100) 民営 6,605 件 (100)	⇒	H21 全体 5,824 件 (88) 民営 5,784 件 (88)	⇒	H24 民営 5,509 件 (83)
---	---	--	---	-------------------------------

静岡地区全産業（民営＋公務）の全事業所数は、長期的に減少傾向にある。特に民営事業所数は、H8→H24で約100件減、対比83%となり、静岡地区における経済活動全般の減退傾向が伺える。

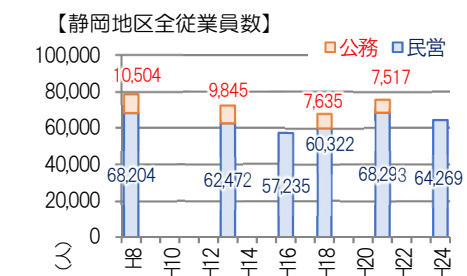
出典: H8・13・16・18「事業所・企業統計調査」H21「経済センサス-基礎調査」H24「経済センサス-活動調査」但し、H16及びH24の調査は、公務に関する事業所調査は実施していないため、民営事業所のみを記載



◎全従業員数は、ほぼ横ばいに推移

H8 全体 78,708 人 (100) 民営 68,204 人 (100)	⇒	H21 全体 75,810 人 (96) 民営 68,293 人 (100)	⇒	H24 民営 64,269 人 (94)
---	---	---	---	-----------------------------------

静岡地区全産業（民営＋公務）の従業員数は、ほぼ横ばいに推移している。民営従業員数は、H16→H21にかけて増加したが、H24で減少に転じた。公務従業員数は、減少の一途にあり、H8→H21で約3千人減、対比72%となった。



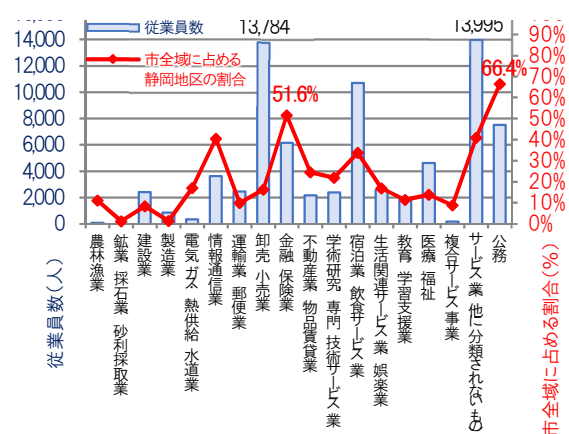
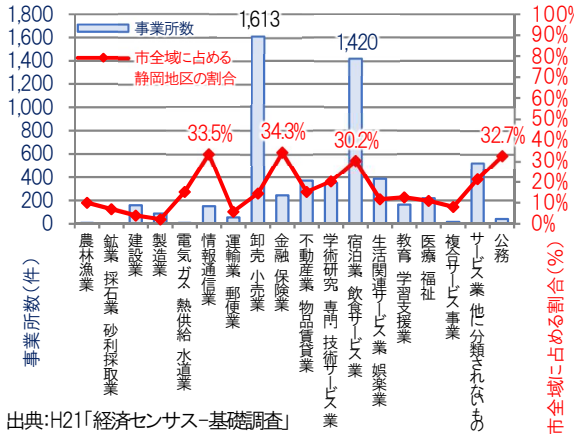
出典: H8・13・16・18「事業所・企業統計調査」H21「経済センサス-基礎調査」H24「経済センサス-活動調査」但し、H16及びH24の調査は、公務に関する事業所調査は実施していないため、民営事業所のみを記載

◎事業所・従業員とも、商業が最も多い。集積率は金融・保険業、公務が高い

H21 事業所数	
集積数	①卸売・小売業 1,613 件
	②宿泊業、飲食サービス業 1,420 件
集積率	①金融・保険業 34.3%
	②情報通信業 33.5%

H21 従業員数	
集積数	①他に分類されないサービス業 13,995 人
	②卸売・小売業 13,784 人
集積率	①公務 66.4%
	②金融・保険業 51.6%

【H21静岡地区事業所数、市全域に占める割合】



出典:H21「経済センサス-基礎調査」

静岡地区全事業所数を産業分類別に見ると、H21には「卸売・小売業」が最も多く、静岡市内の全ての「卸売・小売業」事業所数（11,124件）の15%が静岡地区に立地している。「商都」と称される静岡市の中でも特に、静岡地区は商業機能の優位性が高いと言える。次いで「宿泊業、飲食サービス業」が多く、「卸売・小売業」「宿泊業、飲食サービス業」の上位2業種で、静岡地区内全事業所の半数以上を占めている。産業分類ごとの、静岡市全域に占める静岡地区の集積率は、「金融・保険業」「情報通信業」「公務」「宿泊業、飲食サービス業」がそれぞれ3割を超え相対的に高く、これらの産業は静岡地区への集積が図られていると言える。

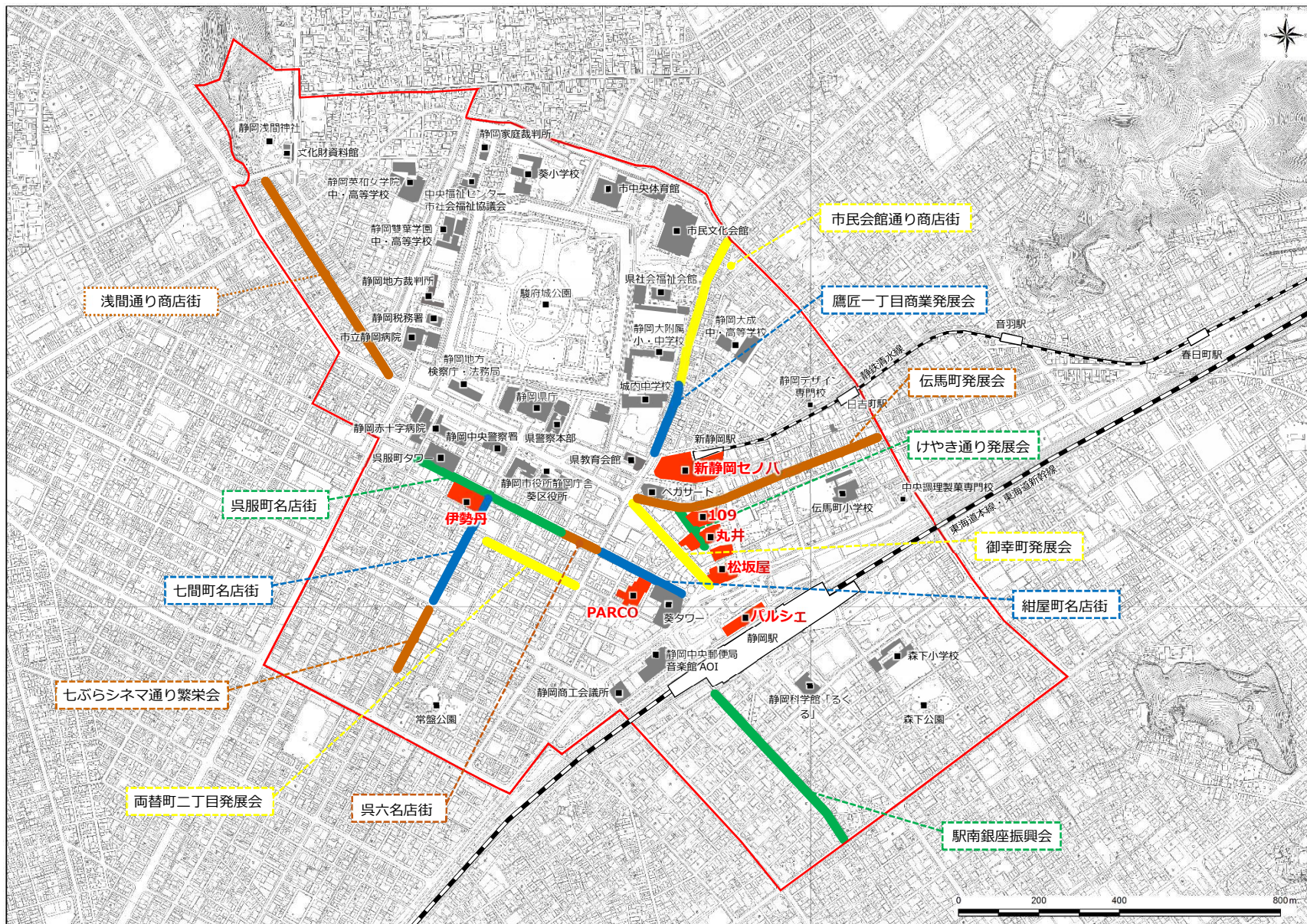
静岡地区全従業員数を産業分類別に見ると、H21は「サービス業（他に分類されないもの）」「卸売・小売業」が約1万4千人であり、ほぼ同水準で最も多い。次いで多い「宿泊業、飲食サービス業」を合わせた上位3業種で、静岡地区内全従業員の過半数を超えている。産業分類ごとの、静岡市全域に占める静岡地区の集積率は、「公務」「金融・保険業」が5割を超え相対的に高く、これらの産業は静岡地区への集積が図られていると言える。特に、静岡市内で公務に従事する者の7割近くが静岡地区で就労しており、特に高い集積が図られている。

小売業関連

◎複数の商店街・大型店が面的に連なる

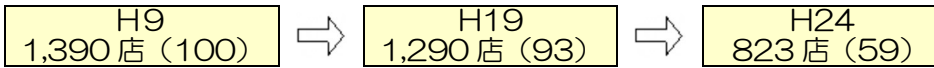
静岡地区には、百貨店などの主要な大型店7店を軸とした上で、複数の商店街・個店が面的に連なり、地方都市としては全国有数の商業空間が形成されている。この商業空間こそが「商都」となる所以であるが、近年、「老舗専門店の閉店 → コンビニやドラッグストア・カフェ等のナショナルチェーン店の出店」が相次ぎ、店舗構成が他のまちと変わらない「無個性化」が進みつつある。

主な商店街	静岡呉服町名店街、呉六名店街、静岡紺屋町名店街、七間町名店街、七ぶらみ通り繁栄会、両替町二丁目発展会、御幸町発展会、伝馬町発展会、鷹匠1丁目商業発展会、けやき通り発展会、静岡浅間通り商店街、静岡市民会館通り商店街、駅前銀座振興会 ほか
主な大型店	松坂屋静岡店、静岡伊勢丹、パルシェ、静岡PARCO、丸井静岡店、SHIZUOKA 109、新静岡セノバ ほか

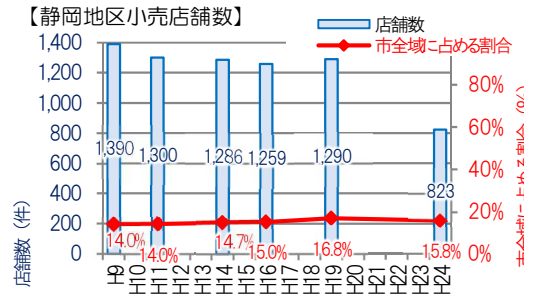


※以下に記載するH24「経済センサス-活動調査」の小売商業関連値は、H19までの「商業統計調査」と集計方法が異なっているため、経年変化の純粋な比較は出来ない。但し、ほぼ同対象を捉えた近似値であると仮定し、H24活動調査の値も含めた推移を捉えることとする。

◎小売店舗数は、H24に大幅に減少

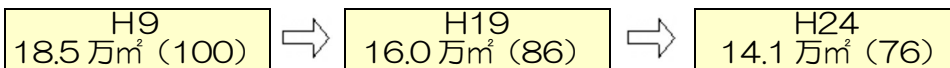


静岡地区の小売店舗数は、市全域が減少の一途にある中で、H9→H19はほぼ横ばいに推移し、店舗数を維持していたが、H24に大幅に減少し、H9→H24で約570店減、対比59%となった。市全域に占める静岡地区の割合（集積率）は15%前後で推移し、H19までは増加傾向にあったが、H24に減少に転じた。

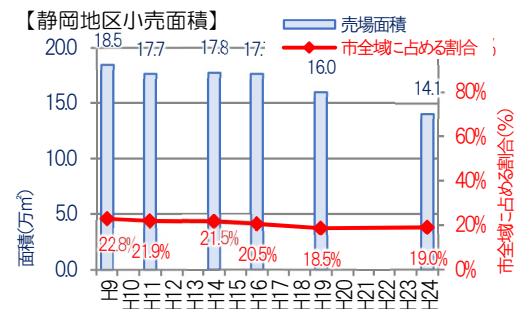


出典:H9・11・14・16・19「商業統計調査」、H24「経済センサス-活動調査」

◎小売面積は、横ばい～減少傾向

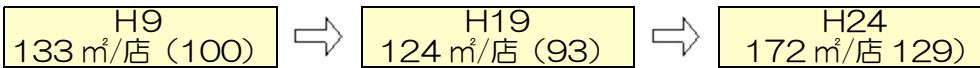


静岡地区の小売業の売場面積は、増減を繰り返しつつ、横ばい～減少傾向で推移しているが、H9→H24で対比76%となった。市全域に占める静岡地区の割合（集積率）は20%前後で推移し、ほぼ横ばいで推移している。

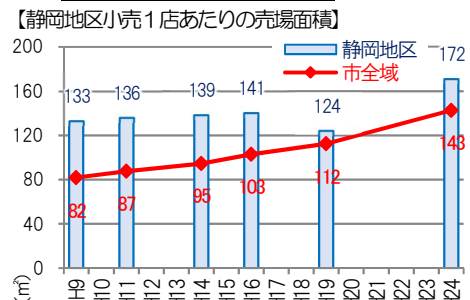


出典:H9・11・14・16・19「商業統計調査」、H24「経済センサス-活動調査」

◎小売1店舗あたりの面積は、横ばい～増加傾向



静岡地区の小売業1店舗あたりの売場面積は、市全域が増加の一途にある中、H9→H19にかけてほぼ横ばいに推移してきた。H24に大きく増加し、H11対比129%となった。静岡地区においても「大型店化」の傾向が伺える。



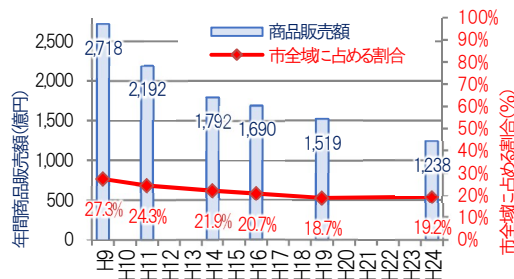
出典:H9・11・14・16・19「商業統計調査」、H24「経済センサス-活動調査」

◎小売年間商品販売額は、減少傾向

H9 2,718 億円 (100)	⇒	H19 1,519 億円 (56)	⇒	H24 1,238 億円 (46)
----------------------	---	----------------------	---	----------------------

静岡地区の小売年間商品販売額は、長期的に減少傾向にあり、H9→H24で約1,500億円減、対比46%に大きく減少した。また、市全域に占める静岡地区の割合（集積率）も2割を下回る等やや減少傾向にあり、商品販売額関連値の減少傾向は、静岡地区における商業活力の減退状況を如実に表している。

【静岡地区小売年間商品販売額】



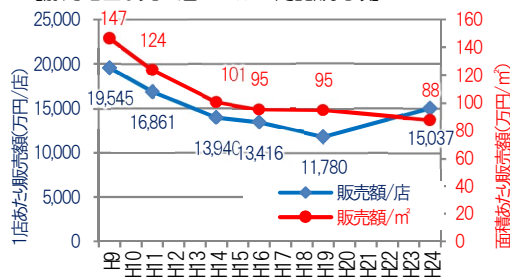
出典：H9・11・14・16・19「商業統計調査」、H24「経済センサス-活動調査」

◎小売1店の販売額は長期的に減少、直近は増加。1㎡あたりの販売額は減少傾向

H9 販売額/店 19,545万円 (100) 販売額/㎡ 147万円 (100)	⇒	H19 額/店 11,780円 (60) 額/㎡ 95万円 (64)	⇒	H24 額/店 15,037万円 (77) 額/㎡ 88万円 (60)
---	---	--	---	---

静岡地区の小売1店舗あたりの年間商品販売額は、H9以降減少傾向にあったが、H24に増加に転じた。小売店舗数は減少する中、1店あたりの販売額は増加しており、販売力・効率の高い店舗が営業継続していると言える。

【静岡地区小売1店・1㎡の商品販売額】



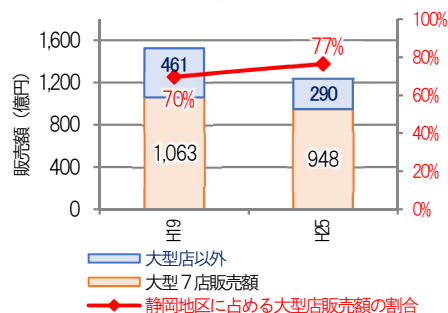
出典：H9・11・14・16・19「商業統計調査」、H24「経済センサス-活動調査」

◎主要大型店7店の販売額は減少傾向にあるが、地区全体に占める割合は増大

H19 販売額 1,063 億円 (100) 割合 70% (100)	⇒	H25 販売額 948 億円 (89) 割合 77% (110)
---	---	--

静岡地区の百貨店等の主要大型店7店の年間商品販売額は、H19→H25で115億円減、対比89%となった。大型店1店あたりのH25平均販売額は135億円であり、この6年で理論上はおおよそ大型店1店分の販売額を失ったこととなる。

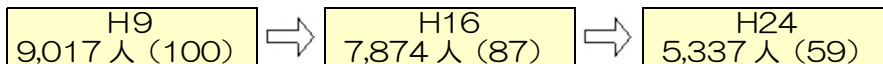
【主要大型7店販売額】



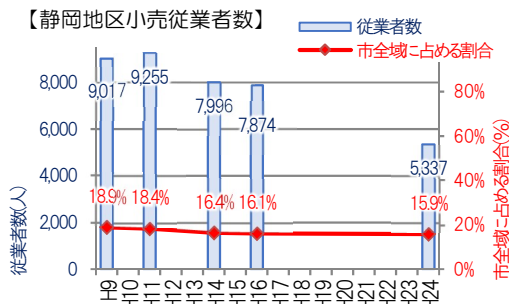
一方、静岡地区全体に占める主要大型店販売額の割合は増加し、地区の77%を占めるに至った。

出典：静岡市による主要大型店7店（松坂屋、伊勢丹、パルシェ、パルコ、丸井、109、新静岡セナバ）へのヒアリング内容及び H19「商業統計調査」、H24「経済センサス-活動調査」を基に推計

◎小売従業者は、減少傾向



静岡地区の小売業従業者は、長期的には減少傾向にある。H11に一時増加に転じたが、H24には大きく減少し、H9対比59%となった。従業者の減少、つまりは「雇用の喪失」も、静岡地区における経済活力の減退傾向を表している。

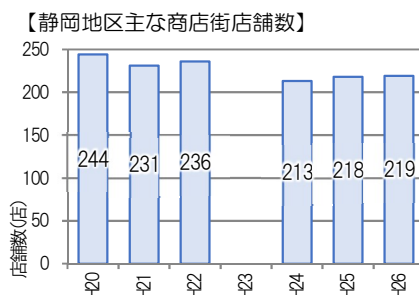


出典:H9・11・14・16「商業統計調査」、H24「経済センサス-活動調査」

◎主な商店街（呉服・七間・紺屋町）の店舗数は、減少傾向

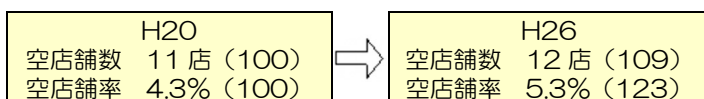


静岡地区の主な商店街のうちの3商店街（呉服町名店街、七間町名店街、紺屋町名店街）の店舗数は、横ばい～やや減少傾向にあり、H20→H26対比89%となった。但し、直近3年では回復傾向にある。

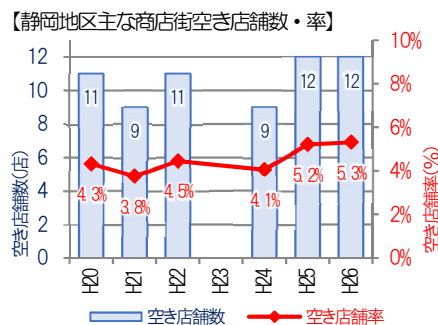


出典:H21 静岡市「商業都市戦略プロジェクト」、H20-26 静岡市「商店街データレポート」で経年変化を把握できる商店街を抽出し算出。なお、H23はデータ一部不足により計上できず

◎主な商店街（呉服・七間・紺屋町）の空き店舗数・率は、増加傾向



静岡地区の主な商店街のうちの3商店街（呉服町名店街、七間町名店街、紺屋町名店街）の空き店舗数・率は増加傾向にあり、特に空き店舗率は、H20→H26対比で123%となった。



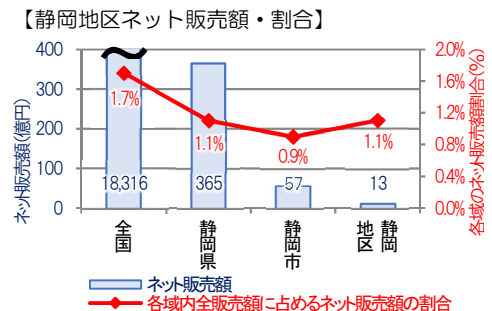
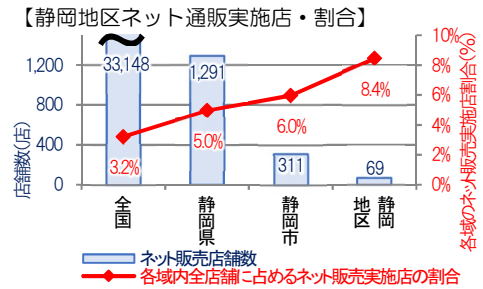
出典:H21 静岡市「商業都市戦略プロジェクト」、H20-26 静岡市「商店街データレポート」で経年変化を把握できる商店街を抽出し算出。なお、H23はデータ一部不足により計上できず

◎ネット販売は全店舗の1割が実施、販売額は13億円

H24	
ネット販売実施店	69店（地区全店舗の8%）
ネット販売額	13億円（地区全販売額の1%）

静岡地区の小売店舗のうち、ネット販売を実施している店は69店であり、地区全店の8%が該当する。その69店のネット販売額は13億円であり、地区全体の小売年間商品販売額の1%に過ぎない。全国・県内・市内の割合と比べると、ネット販売実施店舗割合は相対的に大きいですが、ネット販売額割合は小さいと言える。

出典：H24「経済センサス-活動調査」を基に独自集計（地区内ネット販売額は小売業事業所のうち、「19 小売販売額の商品販売形態別割合」で「④インターネット販売」に1%以上の販売がある店舗において、各店舗販売額にネット販売割合を乗じた額を町丁目で小計した上で、各町丁目の面積比を乗じた額を合算し、地区全体で総計算出した。店舗数も同様に面積比を乗じて算出）



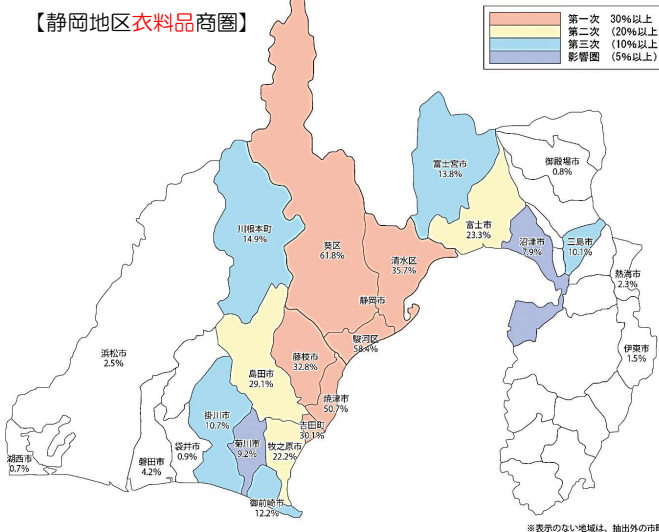
◎商圈は、県の東部～西部の広域にわたる

静岡地区の商圈として、「衣料品」は、東は三島市から西は掛川市までの広域に亘り、圏域人口約208万人（H22国勢調査）を吸引している。衣料品をはじめ、靴・バッグ・装飾品、贈答品等の『買回品・専門品』については、地方有数の広域集客性を有していると言える。

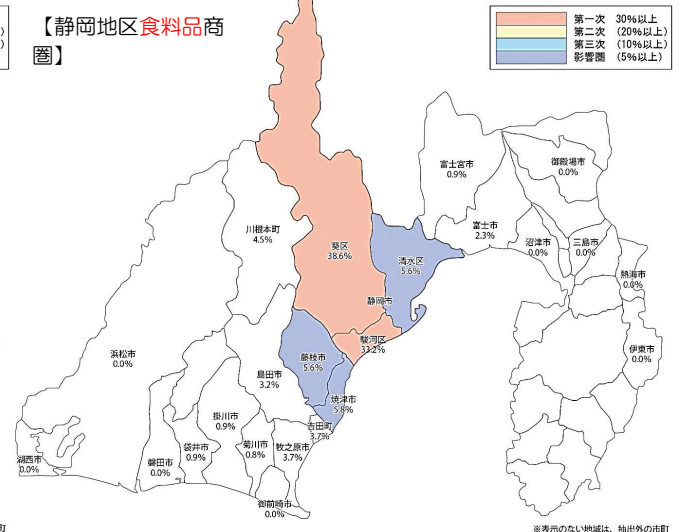
また「食料品」は、葵区・駿河区を主な商圈としている。日用雑貨等を含めた『最寄品』をも充足し、地域生活を支える一面も有している。

※前計画に記載している商圈（静岡県「静岡県の消費動向」に基づく商圈）とは、調査方法が異なるため、純粋な経年比較は出来ない。

【静岡地区衣料品商圈】



【静岡地区食料品商圈】



出典：H23 静岡市「静岡市都心商圈等実態調査」

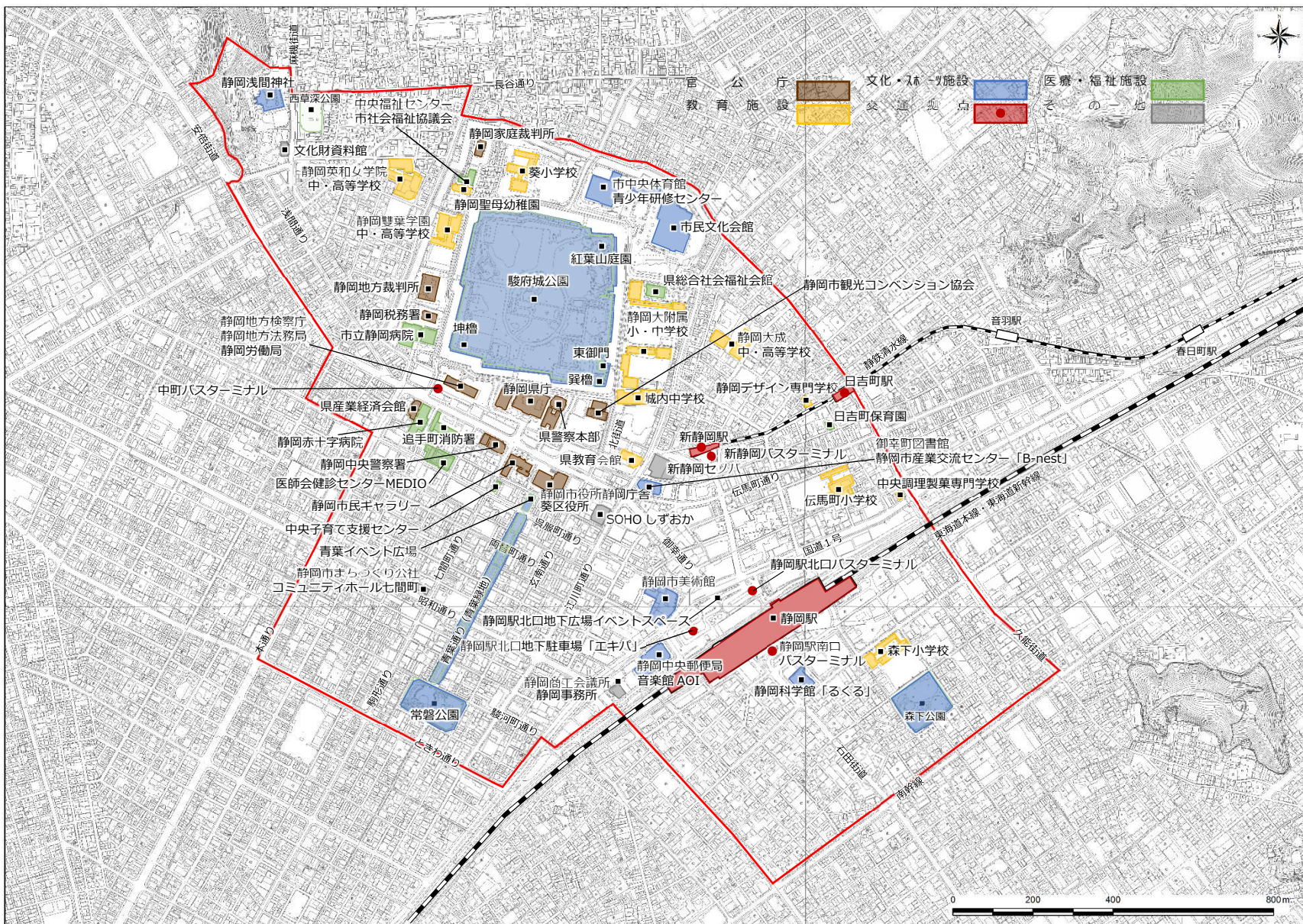
都市機能

◎多様な高次都市機能が面的に集積

静岡地区には、官公庁、文化・スポーツ施設、教育施設、交通拠点等、多様な高次都市機能施設が面的に立地・集積し、生活利便性・広域集客性の高いエリアとなっている。

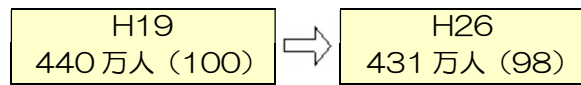
種別	施設名
官公庁	静岡市役所静岡庁舎・葵区役所、追手町消防署、静岡県庁、静岡県警察本部、静岡中央警察署、静岡地方裁判所、静岡家庭裁判所、静岡地方検察庁、静岡地方法務局、静岡税務署、静岡労働局 ほか
文化・スポーツ施設	静岡市美術館、静岡市民文化会館、静岡音楽館AOI、静岡市民ギャラリー、静岡科学館「る・く・る」、静岡市中央体育館、駿府城公園（東御門、紅葉山庭園、巽櫓、坤櫓等）、常磐公園、森下公園、青葉緑地、青葉イベント広場（葵スクエア）、静岡駅北口地下広場イベントスペース ほか
医療・福祉施設	市立静岡病院、静岡赤十字病院、医師会健診センターMEDIO、中央子育て支援センター、県総合社会福祉会館、市中央福祉センター、青少年研修センター、日吉町保育園 ほか
教育施設	静岡大付属小学校・中学校、伝馬町小学校、葵小学校、森下小学校、城内中学校、静岡英和女学院高等学校・中学校、静岡大成中学校・高等学校、静岡雙葉中学校・高等学校、静岡聖母幼稚園、中央調理製菓専門学校静岡校、静岡デザイン専門学校、御幸町図書館、静岡県教育会館 ほか
交通拠点	JR静岡駅、静岡鉄道新静岡駅、静岡鉄道日吉町駅、静岡駅北口バスターミナル、静岡駅南口バスターミナル、新静岡バスターミナル、中町バスターミナル、静岡駅北口地下駐車場「エキパ」 ほか
その他	静岡商工会議所静岡事務所、静岡市まちづくり公社、静岡市観光コンベンション協会、静岡市産学交流センター「B-nest」、静岡市創業者支援センター「SOHOしずおか」、静岡市クリエイター支援センター、静岡中央郵便局 ほか

【静岡地区都市施設立地状況】

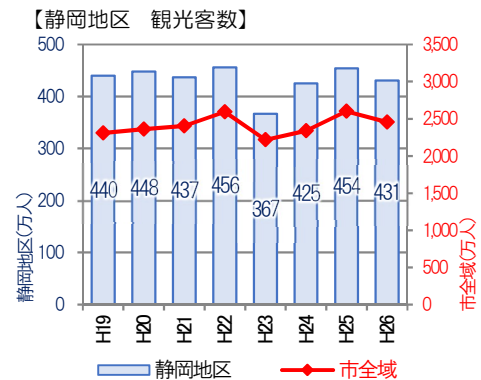


観光・交流

◎観光客数は、ほぼ横ばいに推移

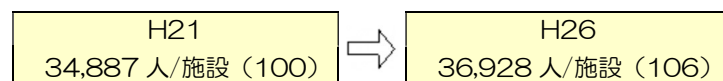


静岡地区の観光客数（地区内の主な施設・イベント等の利用者・参加者数の計）は、東日本大震災の影響等によってH23に一時減少したが、それ以外は430～450万人程度で、ほぼ横ばいに推移している。

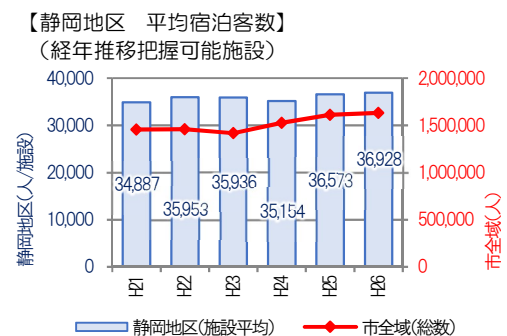


出典:H19-26 静岡市「観光交流客数調査」を基に、静岡地区に立地している施設・開催されている事業(静岡市美術館(H22～)、静岡市民文化会館、静岡音楽館AOI、静岡科学館る・くる、静岡ホピースクエア(H23～)、静岡市民ギャラリー、静岡アートギャラリー(～H20)、駿府城東御門、紅葉山庭園、静岡浅間神社(本殿参拝、一般参拝)、静岡市文化財資料館、駿府博物館、静岡まつり、大道芸ワールドカップ、シズオカ シネマ パーク フェスティバル(H21～22)、Shizuoka×Canne Week(H24～)、廿日会祭、静岡おだっくい祭り(H21～24)、シズオカ・サンパカーニバル(H21～)、しぞーかおでんフェア(H21～)、グルメ王国フェスト(H23～25))の利用・参加者数を集計

◎宿泊客数は、横ばい～やや増加傾向



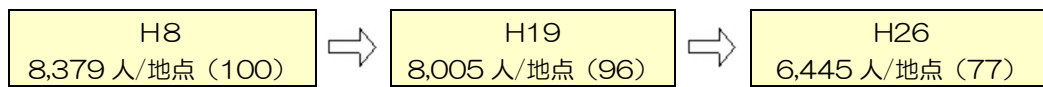
静岡地区の宿泊客数（経年変化が把握できる宿泊施設の平均）は、横ばい～やや増加傾向で推移している。東日本大震災の影響等で観光・交流人口が大きく減少したH23にも多くの宿泊客数があることから、静岡地区は観光によらない宿泊客（ビジネス等）も多いものと推察される。



出典:H21-26 静岡市「観光交流客数調査」において、H21以降の経年推移が確認できる宿泊施設 11 箇所(ホテルアジア静岡、ホテルセンチュリー静岡、静岡グランドホテル中島屋、静岡北ワシントンホテルプラザ、静鉄ホテルプレジオ静岡駅北、サンパレスホテル、ホテルガーデンスクエア静岡、ホテルシティオ静岡、ホテル盛松館、静岡キャッスルホテル佐乃春、静岡第一ホテル)の平均宿泊客数を集計

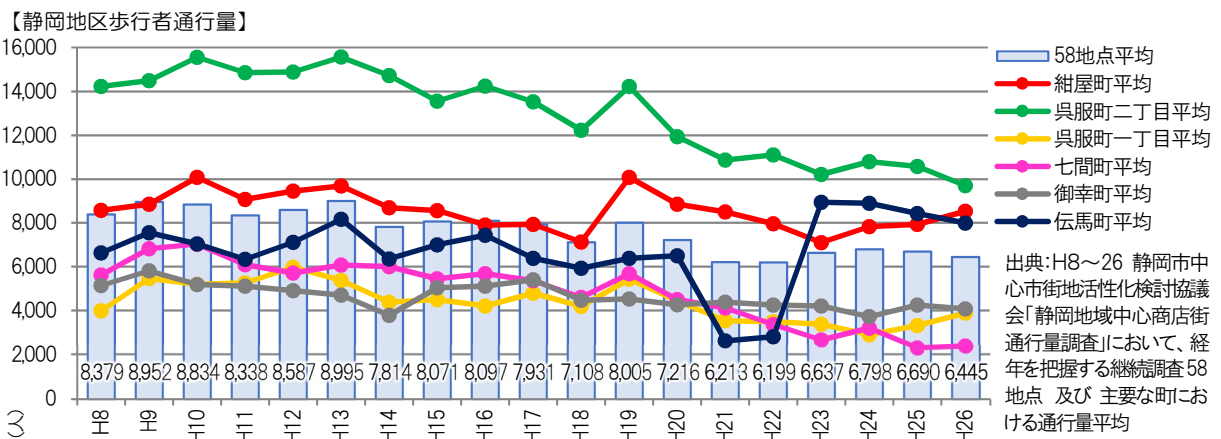
回遊・滞在関連

◎歩行者通行量は、長期的に減少傾向。伝馬町は増加、呉服町・七間町は減少傾向



静岡地区の歩行者通行量は、長期的に減少傾向にある。経年推移を把握する継続調査58地点の平均通行量は、H8→H26で約2千人減、対比77%となり、この20年弱で2割の通行量を失っている。ここ数年の傾向としては、H19に静岡パルコとSHIZUOKA109の開店が重なり一時的に増加したが、その後は減少が進んだ。H21には新静岡センターの閉店等によって7千人を下回ったが、前計画の推進、特にH23の新静岡セノバ開店による効果として、伝馬町ブロックを中心に歩行者通行量が大きく増加し、静岡地区歩行者通行量の減少傾向は底を打った感はあるものの、以後大きく増加に転じるまでには至っていない。

※調査地点位置は、3-3数値指標「静岡地区歩行者通行量」参照



主要な町ごとの特徴的な傾向としては、

【紺屋町】静岡西武の閉店（H17）や、静岡パルコの開店（H19）、葵タワー・静岡市美術館の開業（H22）等、町内の大型集客施設の開店・閉店の影響を受け、増減を繰り返しているが、長期的にはほぼ横ばいに推移している。H23以降は増加傾向にあり、H26には伝馬町を上回り、主要な町で2番目に通行量が多くなった。

【呉服町二丁目】全年度で最も通行量が多いが、長期的には減少傾向にある。H8→H26で約4,500人減少（対比68%）し、主要な町で最も多く通行量が減少した。ピーク時であるH13に約1万5千人あった通行量が、H26に初めて1万人を下回った。

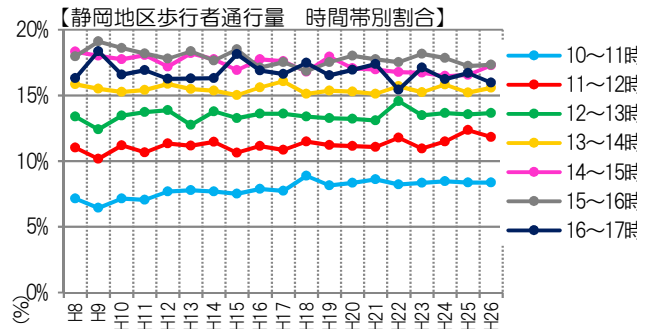
【呉服町一丁目】年度によっては主要な町で最も通行量が少ないが、町内に呉服町タワーが開業したH25以降は増化傾向にある。

【七間町】長期的に減少傾向にある。七間町内の映画館が複数閉館したH23に大きく減少し、初めて主要な町で最も通行量が少なくなった。H8→H26対比42%（3,200人減）となり、最も大きな減少率となった。

【伝馬町】町内の新静岡センターが閉店したH21に大きく減少し、主要な町で最も通行量が少なくなったが、新静岡セノバが開店したH23に大きく回復した。その後は逡減傾向にある。

◎通行量のピークは14～16時。午前中の通行量がやや増加傾向。

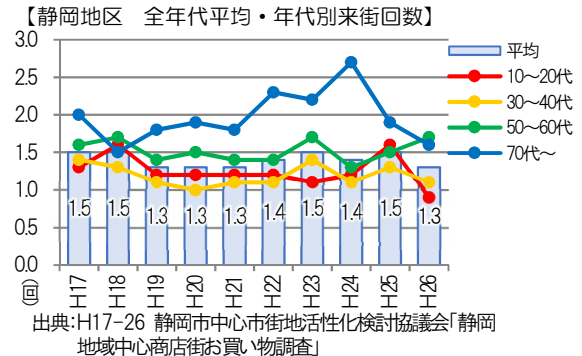
H8		H26	
10-11時	7%	10-11時	8%
11-12時	11%	11-12時	12%
12-13時	13%	12-13時	14%
13-14時	16%	13-14時	16%
14-15時	18%	14-15時	17%
15-16時	18%	15-16時	17%
16-17時	16%	16-17時	16%



静岡地区の歩行者通行量の時間帯別割合は、各年度とも概ね14～16時をピークに、午後の時間帯（13時～17時）が比較的多い傾向が続いている。午前中の通行量割合は少ないが、長期的にはやや増加傾向にある。割合の最高値と最低値の差が、H8には11%であったのに対し、H26には8%に縮まり、来街時間帯の平均化・分散化が伺える。

◎来街回数は、週に1～2回程度。若い年代の来街が少ない

H17		H26	
平均	1.5回	平均	1.3回
10～20代	1.3回	10～20代	0.9回
30～40代	1.4回	30～40代	1.1回
50～60代	1.6回	50～60代	1.7回
70代～	2.0回	70代～	1.6回

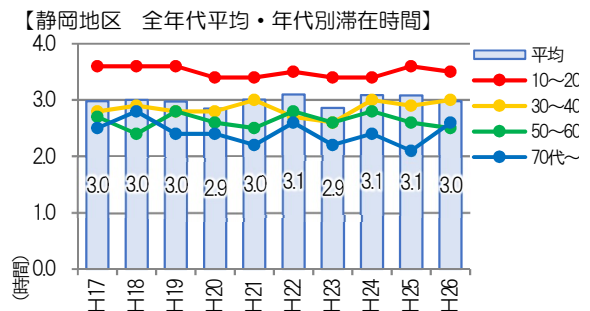


静岡地区への1週間あたり平均来街回数は、ほぼ横ばいに推移している。H26は平均で週に1.3回来街しており、概ね週に1～2回は来街していると言える。

年代別では、70歳代以上がほぼ全ての年度で最も多く来街し、H24までは増加傾向にあったが、H25以降大きく減少した。40歳代以下の年代は相対的に少ない傾向にあり、特に10～20歳代の来街回数は、H26には週1回を下回った。

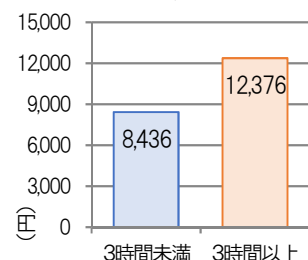
◎滞在時間は3時間程度。若いほど長く滞在

H17		H26	
平均	3.0時間	平均	3.0時間
10～20代	3.6時間	10～20代	3.5時間
30～40代	2.8時間	30～40代	3.0時間
50～60代	2.7時間	50～60代	2.5時間
70代～	2.5時間	70代～	2.6時間



静岡地区の1日あたりの平均滞在時間は、ほぼ横ばいに推移し、H26は平均で3.0時間滞在している。年代別では、若い年代ほど滞在時間は長い傾向にあり、10～20歳代が全ての年度で最も長く滞在している。また、まちに滞在時間が長いほど経済効果が期待され、特に滞在時間が3時間を超えると、買物予算が約1.5倍となる。さらなる地域経済の活性化に向け、滞在時間の延伸が求められる。

【H26静岡地区滞在時間と買物予算の相関】



出典:H17-26 静岡市中心市街地活性化検討協議会「静岡地域中心商店街お買い物調査」

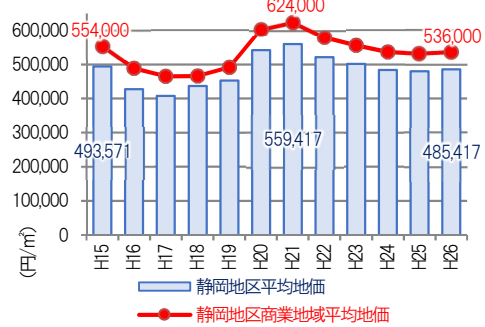
土地関連

◎地価は、全体・商業地ともH21以降は減少傾向

H15	H21	H26
平均 49万4千円/㎡ (100)	平均 55万9千円/㎡ (113)	平均 48万5千円/㎡ (98)
商業地 55万4千円/㎡ (100)	商業地 62万4千円/㎡ (113)	商業地 53万6千円/㎡ (97)

静岡地区の平均地価は増減を繰り返しながらも、長期的にはほぼ横ばいに推移している。ここ数年はH21をピークに減少傾向にあったが、H26には増加に転じた。商業地だけで見ても、地区全体と同様に推移している。

【静岡地区 平均地価】



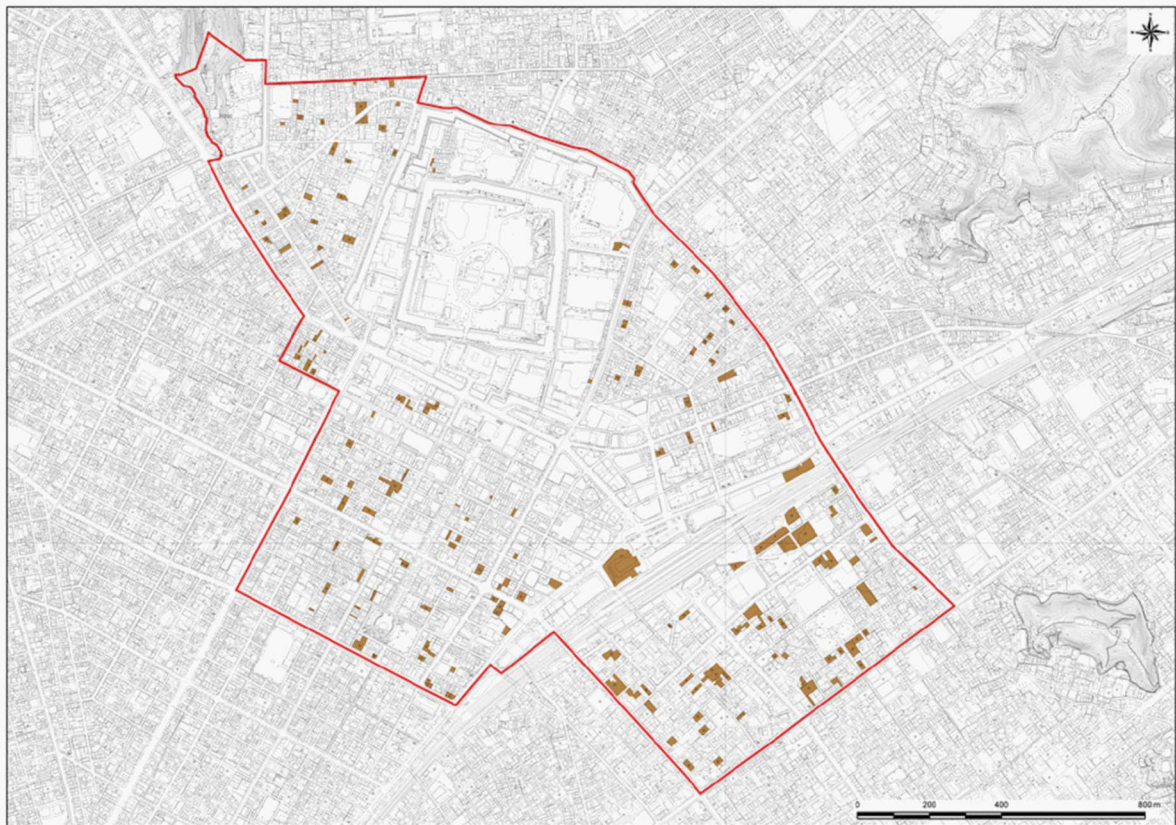
出典: H15-26 国土交通省「地価公示」、静岡県「地価調査」を基に、住居地域、商業地域を抜料し算出

◎低未利用地は、地区全体の3%程度

H23	
面積	74,121 ㎡
割合	3.1%

静岡地区の低未利用地（空き地・駐車場など）は約7万4千㎡で、区域面積（240ha）に占める面積割合は3.1%であり、地区の大半の土地が利用されていると言える。

【静岡地区低未利用地（H23）】



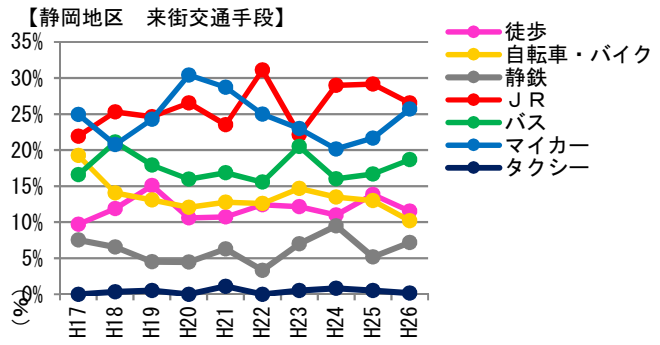
出典: H23 静岡市「都市計画基礎調査」

交通関連

◎JR・マイカーで来街する人が多い

H17		H26	
①マイカー	25% (100)	①JR	27% (123)
②JR	22% (100)	②マイカー	26% (104)
③自転車・バイク	19%	③バス	19%

静岡地区への来街交通手段は、JRとマイカーの利用者が多い。JR・静鉄・バスを合わせた公共交通の利用者が、いずれの年度でも5割近くを占めている。マイカー利用者は、H20をピークに減少傾向にあったが、H24以降再び増加に転じている。自転車（バイク含む）での来街者は、やや減少傾向にある。

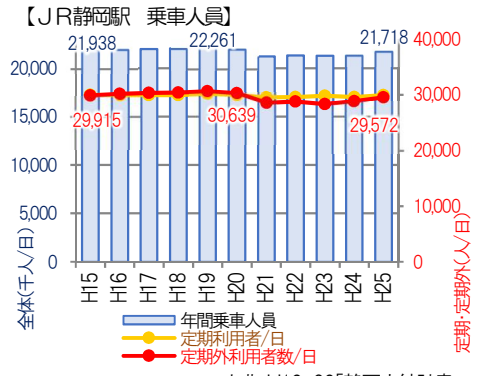


出典：H17-26 静岡市中心市街地活性化検討協議会「静岡地域中心商店街通行量・お買い物調査」

◎JR静岡駅乗車人員は、横ばい～やや減少傾向

H15		H19		H25	
全体	2,194万人/年 (100)	全体	2,226万人/年 (101)	全体	2,171万人/年 (99)
定期	30,025人/日 (100)	定期	30,183人/日 (101)	定期	29,929人/日 (100)
定期外	29,915人/日 (100)	定期外	30,639人/日 (103)	定期外	29,572人/日 (99)

JR静岡駅の年間乗車人員は、ほぼ横ばいで推移している。1日あたりの定期・定期外の利用者数は、いずれの年度でもほぼ同数である。定期外での乗車人員はH19をピークに減少傾向にあったが、ここ数年は増加に転じている。定期外の来街者は、買物・食事・レジャー等を目的にしていると仮定すると、それら諸活動を目的とした来街が回復傾向にあると言える。

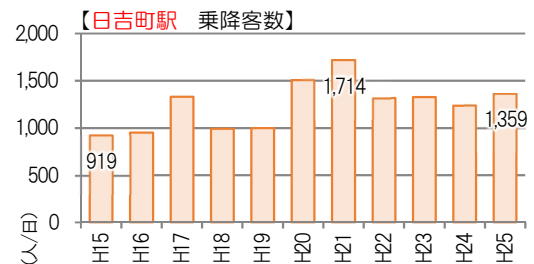
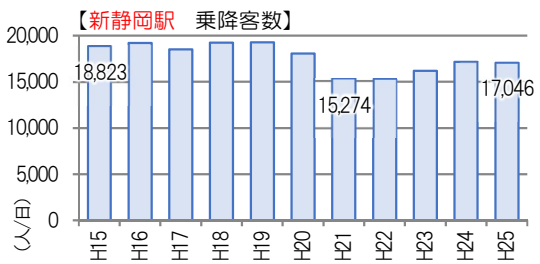


出典：H16-26「静岡市統計書」

◎新静岡駅乗降客数は長期的には減少するも、セノバ開店以降回復傾向

H15		H21		H25	
新静岡	18,823人/日 (100)	新静岡	15,274人/日 (81)	新静岡	17,046人/日 (91)
日吉町	919人/日 (100)	日吉町	1,714人/日 (187)	日吉町	1,359人/日 (148)

静岡鉄道新静岡駅の1日あたりの平均乗降客数は、長期的には減少傾向にあったが、H23の新静岡セノバ開店以降、増加に転じている。日吉町駅は増減を繰り返しつつ、新静岡センターが閉店したH21には、従前（H15・16・18・19）の2倍近くの乗降客数となったが、以後やや減少に転じている。



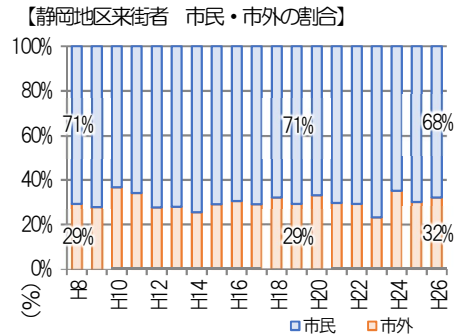
出典：H16-26「静岡市統計書」

来街者特色

◎来街者の3割が、市外から来た人

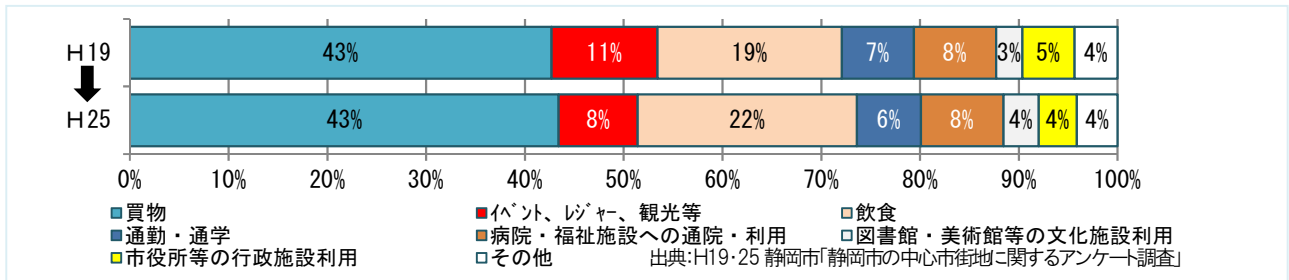
H8 市民 71% 市外 29%	⇒	H19 市民 71% 市外 29%	⇒	H26 市民 68% 市外 32%
------------------------	---	-------------------------	---	-------------------------

静岡地区への来街者は、概ね7割が市民、3割が市外から来た人で、長期的にほぼ同水準で推移している。出典:H8-26 静岡市中心市街地活性化検討協議会「静岡地域中心商店街お買い物調査」



◎来街目的は、買物、飲食、イベント・観光で7割近くを占める

H19	⇒	H25
①買物 43% (100)		①買物 43% (100)
②飲食 19% (100)		②飲食 22% (118)
③イベント、レジャー、観光 11% (100)		③イベント、レジャー、観光 8% (73)
		④病院・福祉施設 8%



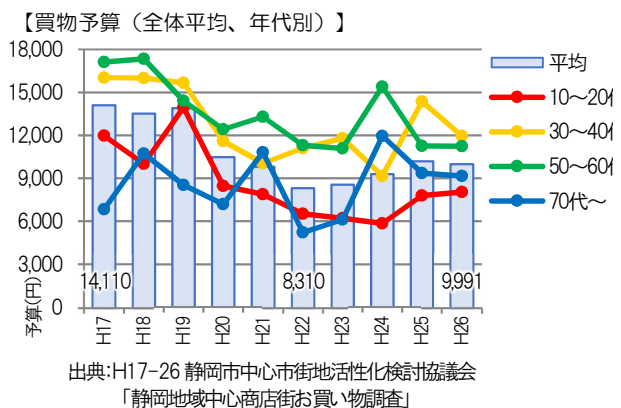
市民が静岡地区を訪れる目的は、「買物」「飲食」「イベント、レジャー、観光」の順で多く、約7割の市民がこの3つのいずれかを目的に来街している。特に、「買物」を目的とする市民は4割を超え、特出している。また、「病院・福祉施設」の通院・利用を目的に来街する人が比較的多いことも、静岡地区の特徴と言える。

◎買物予算は、回復傾向。30～60代が高予算

H17	⇒	H22	⇒	H26
平均 14,110円		平均 8,310円		平均 9,991円
10～20代 11,984円		10～20代 6,534円		10～20代 8,047円
30～40代 16,032円		30～40代 11,109円		30～40代 11,951円
50～60代 17,113円		50～60代 11,299円		50～60代 11,248円
70代～ 6,833円		70代～ 5,223円		70代～ 9,155円

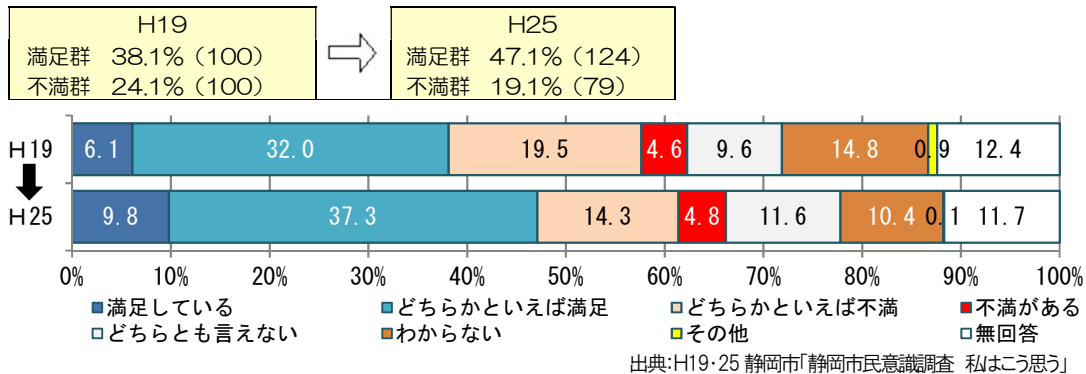
静岡地区来街者の買物予算は減少傾向にあったが、H22以降増加に転じている。

年代別では、年度でバラツキはあるものの、30～60歳代が概ね高い傾向にある。



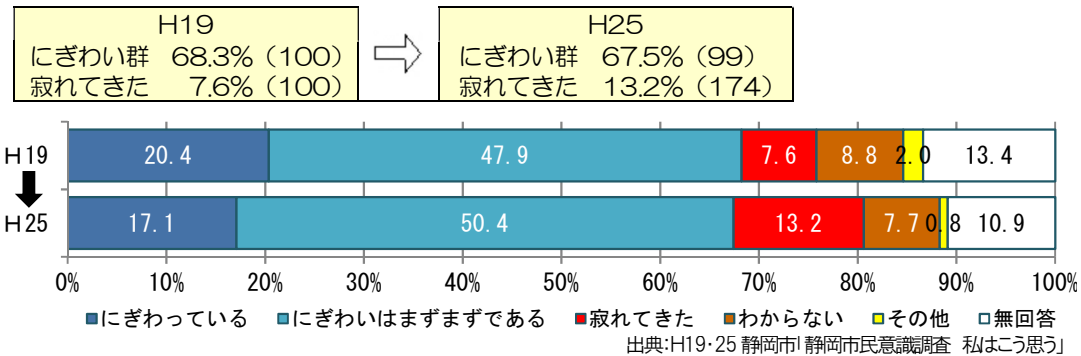
市民意識

◎満足している市民が5割近くを占め、増加傾向。不満な市民は減少傾向



静岡地区に対する評価は、「満足している」「どちらかといえば満足」と感じている『満足群』が5割近くを占め、H19→H25対比124%に増加している。一方、「不満がある」「どちらかといえば不満」と感じている『不満群』は減少傾向にあり、H25には2割を下回った。静岡地区への満足度は、総じて高いと言える。

◎にぎわっていると感じる市民が7割近くだが、寂れたと感じる市民が増加傾向

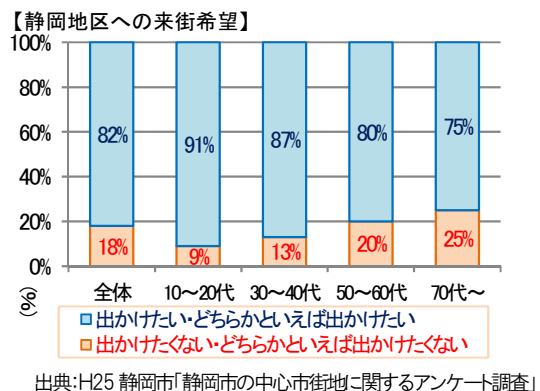


静岡地区に対する印象として、「にぎわっている」「にぎわいはまずまずである」と感じている『にぎわい群』が7割近くを占めているが、H19→H25で0.8%減となり、僅かながら減少した。一方、「寂れてきた」と感じている市民は増加傾向にあり、H19→H25で5.6%増となった。静岡地区のにぎわいの印象は、総じて高いと言えるが、やや減退傾向にある。

◎8割以上の市民が、出かけたいたいと感じている

来街希望	
出かけたいたい群	82%
出かけたくない群	18%

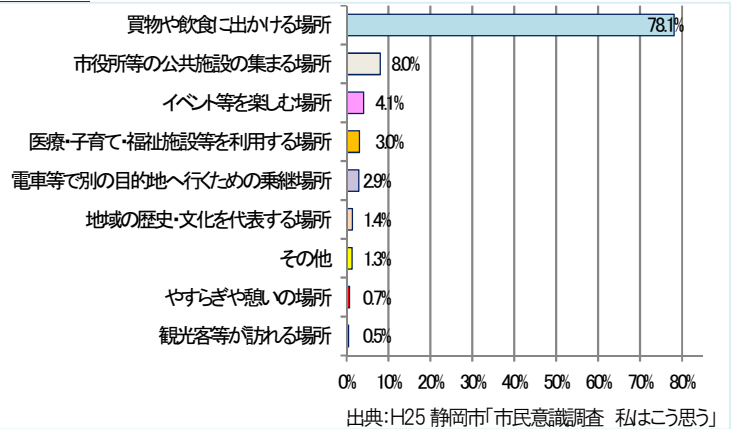
静岡地区へは、8割以上の市民が出かけたいたいと感じている。若い世代ほど希望する人が多く、「出かけたいたい」「どちらかといえば出かけたいたい」の『出かけたいたい群』が10～20代では9割を超えている。静岡地区への来街希望は、総じて高いと言える。



◎イメージは、買物や飲食に出かける場所

静岡地区のイメージ	
①買物や飲食の場	78.1%
②公共施設の集まる場	8.0%
③イベント等を楽しむ場	4.1%

市民が抱く静岡地区のイメージは、「買物や飲食に出かける場所」が圧倒的に多い。これも「商都」となる所以ではあるが、逆にいえばそれ以外のイメージはどれも数パーセントに過ぎず、買物・飲食の場以外の印象が乏しいと言える。特に、にぎわい創出の鍵となる歴史・文化の場としてのイメージが低い状況にある。



◎希望するまちの姿は、にぎわい創出、歩道等の充実、商業が盛んなまち

静岡地区への希望	
①にぎわいや活気のある場所	39%
②道路・歩道・駐車場の充実した場所	33%
③商業が盛んな場所	29%

市民が静岡地区に希望するまちの姿は、「人々が集まりにぎわいや活気のある場所」が39%で最も多い。次いで「道路や歩道、駐車場の充実した場所」として移動・回遊性の向上、「お店が多く品揃えが豊富で商業が盛んな場所」として商業機能の充実が望まれている。また、交通アクセスの向上や、安全安心・快適性の向上、歴史・伝統を感じる場所となることも、多くの市民が望んでいる。

